



令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果について

今年度、4月18日に行われた「全国学力・学習状況調査」では、全国の小学6年生と中学3年生を対象に、児童・生徒の学校や家庭での学習状況（学習意欲、学習方法、生活の諸側面など）に関する調査と、小学生は「国語」「算数」についての学力調査が行われました。

今回の調査結果は、川西小学校児童の学力の限られた一部分ではありますが、結果を基に本校の現状を分析してまとめましたので、その概要を保護者の皆様にお知らせいたします。



小学6年生の学力調査では、国語と算数の2教科で、「生活に不可欠な知識や技能など」に関する問題と、「知識や技能を活用する力や、課題解決力など」に関する問題が出題されました。それぞれの教科の調査結果から、川西小学校の児童の学力について、以下のような特徴が見られました。

国語

☆概ね力がついていること

- ・資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること
- ・目的や意図に応じて伝えたいことを明確にすること
- ・情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと
- ・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと
- ・人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること



☆これから力をつけていきたいこと

- ・文の中における主語と述語との関係を捉えること
- ・読書に親しみ、自分の考えを広げることに役立つことに気づくこと

算数

☆概ね力がついていること

- ・計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述すること
- ・直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解すること
- ・立方体の体積の求め方を式に表すこと
- ・円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ること
- ・速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察すること



☆これから力をつけていきたいこと

- ・目的に応じて、必要なデータを整理する観点を決めること
- ・問題を解決する過程やその結果に必要な数値を用いて処理したり、式にしたりすること

生活実態調査は、「児童質問紙」として全67項目の質問によって行われ、全ての項目の回答結果について考察しました。その中で特徴的な項目については以下になります。

生活・学習の状況

- ・「学校の授業時間以外に、どのくらいの時間勉強をしますか」の質問では、「1時間以上」という回答が、平日は約60%、休日は約50%でした。「平日に3時間以上、休日に4時間以上」と回答した児童も約10%いました。
- ・「学校の授業時間以外（平日）に、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、学習のために使っていますか」の質問に対して、「30分以上」という回答が約50%ありました。「2～3時間」と回答した児童も数名いました。

家庭学習の時間には、塾や家庭教師などの時間も含まれています。「家庭学習の時間は、学年×10分」と言われることもありますが、人によって学習の効率も違うので一概には言えません。「集中して取り組む時間」を「毎日継続」していくことが大切です。

タブレットなどのICT機器を学習に活用することは、今後さらに求められるようになります。学校でもタブレット端末を使った学習を工夫しながら進めてまいりますが、各ご家庭でも、お子様の家庭学習の見守りにご協力いただきますよう、よろしくお願いします。

- ・「自分には良いところがある」「将来の夢や目標を持っている」と回答した児童は約90%、「人の役に立つ人間になりたい」との回答は100%でした。
- ・「友達関係に満足している」と回答した児童が98%、「自分と違う意見について考えるのは楽しい」という回答は94%でした。
- ・地域の行事に進んで参加している児童が多く、「地域や社会をよくするために何かしてみたい」と回答した児童は約90%でした。

川西小学校の児童は、自己有用感が高く、友人関係にも満足している児童が多い事がわかります。しかし、否定的な回答の児童も見られることから、学校や地域での人とのかわりを通して、自己有用感や思いやりを更に高められればと思います。

学校では、校訓「みんなでみんなを」のもと、生活場面や学習場面、児童会活動（川西フェスティバル、大なわ大会など）の行事を通して、引き続き人とかわる活動に取り組んでまいります。ご家庭でも、様々な地域活動に参加して、豊かな体験・経験ができるよう、ご協力をお願いします。

川西コミュニティスクールとして、学校と家庭、地域が連携して地域総がかりの教育を進めたいと思いますので、ご理解とご協力をお願いします。

国語科、算数科ともに、学習内容の習得についてとても良好な結果でした。川西小学校では、以前から「主体的・対話的な学習活動」を目指して、各教科の学習の中で、話し合い活動やICT機器の活用を進めています。今回の結果では、国語科「情報の扱い方に関する事項」の領域で取組の成果が見られました。一方で、「記述式の問題」や「解答に対しての説明を必要とする問題」などについて課題も明らかになりました。

今後の学習においては、引き続き、話し合い活動を授業に取り入れながら、目的や意図に応じて表現（書いたり、伝えたり）する活動に取り組んでいきます。また、タブレット端末を活用する学習活動についても、より効果的な活用を目指して取り組んでまいります。